

(別添3)

【都城市】 校務DX計画

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のために、また、校務の効率化を図り、児童生徒と向き合う時間を確保するために、校務DXを推進する。

1 クラウド環境を活用した校務DXの徹底

(1) 教職員向け研修の開催

Google For Educationの支援、県との連携事業等により、管理職向けの自治体CIO研修、ICT教育推進リーダーの育成を図るための活用力向上研修、操作スキルアップ研修、校務活用研修、認定教育者資格取得に向けた研修、高校ICT担当との合同研修となるICTエリアミーティング等の研修を行っている。これらの研修の継続、見直し、拡充を行い、教職員のスキル向上を図る。

(2) リーディングDXスクールの推進

令和6年度、新たに指定されたリーディングDXスクールの取組を進め、標準的仕様に含まれている汎用的なソフトウェアとクラウド環境の具体的な活用に関する実践の創出を図るとともに、公開授業やオンライン公開等で実践内容の普及を図る。

(3) 保護者連絡ツールの活用

引き続き、保護者連絡ツールの活用により、保護者への連絡やアンケート、出欠確認等のDX化を推進し、不合理な手入力、電話やFAXによるやり取り等の削減による教員の負担軽減を図るとともに、保護者の利便性向上を図る。

(4) 学校へのその他支援

教育長GIGAスクールミーティングでの教育長講話、学校訪問による校内研修や授業への助言、教育研究所ICT研究班との連携、ホームページ「ギガッど！みやこんじょ」の充実等による学校への支援の継続、見直し、拡充を図る。

2 次世代の校務支援システムの導入に向けた検討

引き続き、宮崎県統合型校務支援システム共同調達・運営協議会に参加し、県下統一システムを導入する。

また、次世代の校務システムにおいても、校務支援システムの活用推進を図り、不合理な手入力、電話やFAXによるやり取り、押印等の廃止を図ることで、教職員の負担軽減を進める。